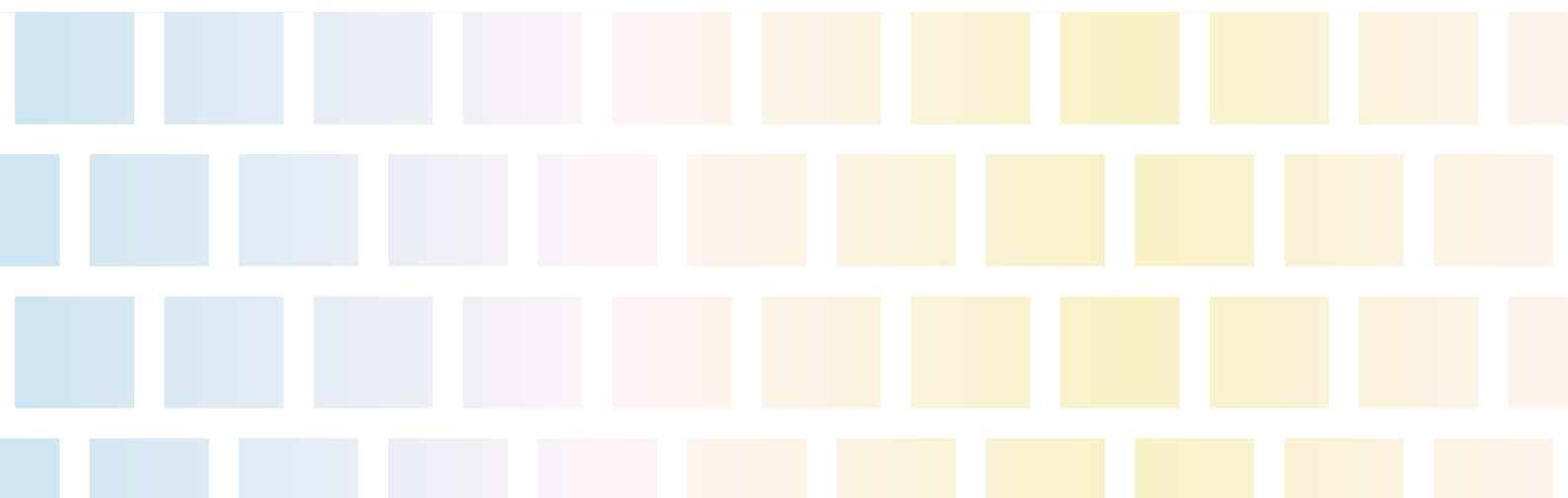


おこやま円卓会議

おこやま地域発展協議体



地域社会の将来を結ぶ

地域の活性化が求められる時代にあつて、岡山を構成する諸団体・諸組織が、それぞれの垣根を乗り越え、相互に連携する種々の取り組みを進めて参りました。そこでは、地域と大学が連携し、世界から人が集まる魅力的な空間を創出し、地域と世界で活躍する人材を育成する拠点ならびに地域活性のイノベーション拠点の創出を目指しています。

「おかやま地域発展協議体」

平成28年4月1日、岡山の社会が対応すべき課題や解決の方向性、例えば各自治体・団体の総合計画・目標等を持ち寄り、共通理解を深め、多様化する諸課題の解決に向けて具体的なアクションプランを協議するために、岡山の社会を構成する産・官・学・金・言の組織や団体が英知を出し合い、一体となつて、岡山の持続的な発展を支える知恵と駆動力の源となることを目的に「おかやま地域発展協議体」が設置されました。

「おかやま円卓会議」

平成28年10月1日、地域社会の頭脳として、世界や国内情勢の動向に基づき、岡山の社会が対応すべき課題や解決方法について、高い視座から自由に意見交換を行い、各立場からビジョンを語り、共通軸を見出すことを目的として、岡山の英知を結集した「おかやま円卓会議」が設立されました。

産官学金言が協働して、地域と教育、地域と医療、技術・環境、まちづくりの4つの分野に関する施策の検討を行うとともに、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」^{*}等も踏まえ、実践型社会連携教育活動等を通じた次代を担う人材の育成に努めてまいります。

* 「持続可能な開発目標（SDGs）」とは：2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。（外務省ホームページから抜粋）

構成

（平成30年4月1日現在）

おかやま円卓会議

（座長）	山陽新聞社 代表	越宗 孝昌
（副座長）	岡山大学 学長	槇野 博史
岡山県商工会議所連合会 代表	岡崎 彬	
一般社団法人 岡山経済同友会 代表	松田 正己	
一般社団法人 岡山県銀行協会 代表	宮長 雅人	
岡山県 知事	伊原木隆太	
岡山市 市長	大森 雅夫	
倉敷市 市長	伊東 香織	
（事務局長）	岡山大学 理事(企画・評価・総務担当)・副学長	高橋 香代

おかやま地域発展協議体

（委員長）	岡山大学理事(企画・評価・総務担当)・副学長
（副委員長）	岡山商工会議所 専務理事 一般社団法人 岡山経済同友会 地域振興委員長
（委員）	岡山県 総合政策局長 岡山市 政策局長 倉敷市 企画財政局長 株式会社中国銀行 常務取締役 山陽新聞社 編集委員室 室長
（顧問）	岡山商工会議所 理事・事務局長 一般社団法人 岡山経済同友会 事務局長 岡山県 総合政策局 政策推進課 課長 岡山市政策局 政策部 政策企画課 地方創生・政策調整担当 課長 岡山市産業観光局 商工観光部 産業政策課 課長 岡山市産業観光局 商工観光部 プロモーション・MICE推進課 課長 岡山市都市整備局 都市・交通部 都市企画総務課 課長 倉敷市 企画財政局 企画財政部 企画経営室 暮らし移住定住推進室長 株式会社中国銀行 ソリューション営業部 担当部長 山陽新聞社 社長室 経営企画部 部長 岡山大学副学長(社会連携担当) 岡山大学大学院教育学研究科 研究科長 岡山大学大学院社会文化科学研究科 研究科長 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 研究科長 岡山大学工学部 学部長 岡山大学地域総合研究センター センター長
（監事）	森協法律事務所 弁護士
（事務局長）	岡山大学 総務・企画部社会連携支援室 室長

おかやま円卓会議 メンバー紹介



山陽新聞社代表【座長】
越宗 孝昌

「知」とは何か。人工知能の発達につれ、その深遠な問いが重みを増しています。人口減少下、地域社会の存続・発展という難題を解決するには、ジャンルを超えた「知」の結集が不可欠。希望あふれる郷土の未来図をともに描いてまいりましょう。



岡山大学長【副座長】
榎野 博史

「おかやま地域発展協議体」は、岡山大学がプラットフォームとなり、岡山の持続的な発展を支える産官学民の連携組織です。「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に取り組む本学は、本協議体を中心として、岡山の発展・活性化と地方創生を進展させてまいります。



岡山県商工会議所連合会代表
岡崎 彬

地域に存在する様々な課題の解決には、大学、行政、民間がそれぞれの知とエネルギーを持ち寄る新しい連携システムが必須です。今後の人口減少社会に向けて、次世代を担う若者が夢を描ける岡山をともに創造しましょう。



一般社団法人岡山経済同友会代表
松田 正己

岡山経済同友会は「サステナブル」をキーワードとし、地域の発展に寄与すべく、16の委員会・部会を構成して活動しております。力強く豊かな地域の創造には産官学の連携が欠かせません。「おかやま地域発展協議体」の活動に賛同し参加いたします。



一般社団法人岡山県銀行協会代表
宮長 雅人

岡山を魅力ある街にするためには、地域の産官学金言が一体的な協力関係を構築し、長期的な地域発展のビジョンを共有することが不可欠と考えます。金融機関として、地域に根ざして本取り組みに積極的に関与し、岡山の課題解決に尽力します。



岡山県知事
伊原木 隆太

急速な人口減少と東京一極集中が進む中、岡山発展のキーワードは「連携」です。岡山の産・学・官・民が英知を結集し、教育やまちづくりなど、さまざまな分野で地域の再生と創生の実現に向けて取り組みを進めていくことは意義深いことと考えます。



岡山市長
大森 雅夫

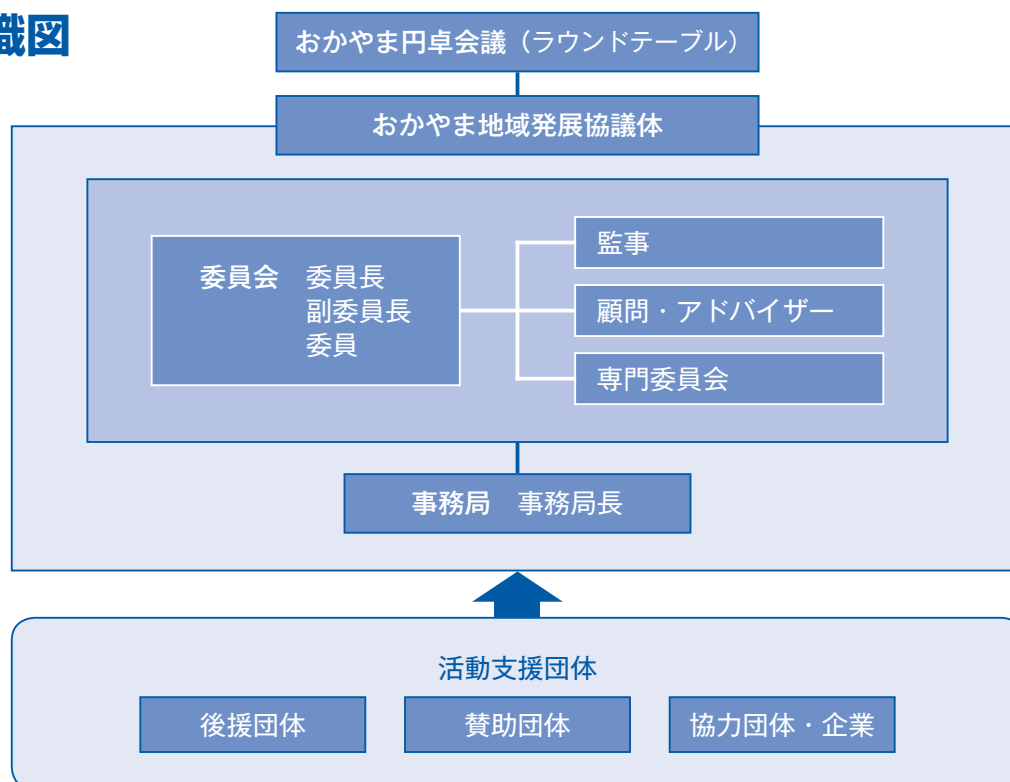
岡山の持つ高いポテンシャルを十分に生かすには、産官学金言の連携が不可欠であり、そのプラットフォームとして本協議体が果たす役割は非常に大きいと考えます。構成団体の皆様と連携して課題解決に尽力するとともに、政令市として地域躍進のイニシアティブを発揮してまいります。



倉敷市長
伊東 香織

「おかやま地域発展協議体」は産官学金言の理想的な連携機関です。倉敷市はその一員として協力し、また一員としてのメリットを生かしながら、地方創生に向けた「倉敷みらい創生戦略」の取り組みの推進、高梁川流域7市3町の連携中枢都市圏の要として地域全体の持続的な発展に、取り組んでまいります。

組織図



「おかやま円卓会議」と「おかやま地域発展協議体」が取り組むテーマ

地域と教育

自治体・教育機関や教育現場で活躍する人たちをはじめ、教育に関心や熱意を持つ若者、地域が共に、学校や地域で子どもの見守りや教育支援活動に取り組み、岡山の教育再生を目指します。

地域と医療

超少子高齢化が進む中で、社会で求められる地域包括ケアシステム構築のため、さまざまな専門分野と連携しながら、医療や介護の現場にかかわり、地域住民や現場で働く人たちの声に耳を傾ける人材を育成します。

技術・環境

社会の持続的発展を実現するために欠かせない、環境に配慮した新しい技術開発の社会背景や動向を、企業や市民団体などの協力を得て現場で体感し、それを自分の問題として考えられるような人材を育成します。

まちづくり

さまざまな活動の経験や人的ネットワークを活用しながら、自治体の都市計画に大学の専門知識を生かした調査活動などをもとに、市民のニーズを踏まえたまちづくりについて考えます。そのPDCA（事業活動における計画・実行・評価・改善）サイクルの原動力として、まちづくりに参加する方法を考え、かかわります。

研究会・勉強会

特定のテーマに沿った研究会や勉強会を立ち上げ、協議・検討を進めています。

■ 岡山まちとモビリティ研究会

産官学及び市民団体の連携によって、都市交通及び関連する各種の問題に関し、行政の方向性を考慮しつつ、学際的かつ業際的研究をはかり、都市交通ならびに地域の魅力や環境の向上に資することを目的とした研究会。「まちと公共交通を考える」「移動の多様性を考える」「中山間地域の交通を考える」の3つの分科会ごとに、公共交通と公共交通を絡めたまちづくりに関連する事象をテーマに活発に議論します。



■ おかやまスポーツプロモーション (SPOC) 研究会

スポーツを活かした地域活性化を考えていくため、産官学金言スポーツの多組織協働によって結成しました。人と人の絆を育み、地域への愛着や誇りを醸成するとともに、交流人口の増加や経済循環の促進のトリガーにさえなり得るスポーツの持つ力に着目。「する」「みる」「支える」という3つの観点からスポーツへの参加機運を高めるとともに、地域に波及効果をもたらす方策を検討しています。



■ おかやま空家対策研究会

産官学及び市民団体の連携により、現在増加しつつある空家及びこれに関連する各種の問題に関し、学際的かつ業際的研究をはかり、利用可能な空家を市場で円滑に流動化させることなどを通じて、地域の魅力や環境の維持、向上に資することを目的としています。



岡山の明日を担うグローバル人材の育成

卓越した人材が世界から集う学都の創生を目指します。地域にあつて企業や自治体等と協力し、現場体験や課題解決を重視する独自の「実践型社会連携教育」の構築に着手し、これにより、優れた人材を育成し、欧米諸国に伍す創造的国際学都岡山の創生に歩みを進めていきます。本協議体が地域社会と共に提供する、世界に卓越した教育サービスが、人材を惹きつける魅力の源泉となり、すなわち、「世界から人が集まる学都」、「地域に貢献する人材を輩出する学都」、この二つのテーマで「実践型社会連携教育」を推進します。

実践型社会連携教育プログラム

実践型社会連携教育とは、学生が講義室にとどまらず地域社会に直接出て、企業や地域の様々な人との関わりを通して課題に気付き、解決策を考え学ぶという地域社会と大学が一体化して提供する新しい教育プログラムです。



スクールボランティア支援システム

スクールボランティアは、地域の教育力を生かすため、学校園での様々な教育活動を学生がボランティア制で支援するものです。地域ぐるみで子どもの学力向上にかかる活動に取り組んでいます。

このスクールボランティアの運営等を支援することを目的として、スクールボランティア支援システムを開発し、運用しています。

地域医療

「多職種連携と地域包括ケアのワークショップ」を2010年から新見市、美作市、真庭市・笠岡市などを巡回して実施しています。市町村における地域包括ケアの構築を目指す作業、岡山県における地域医療ビジョンの策定作業と地域での関係者の協議の場に参画して、地域における望ましい医療提供体制、地域包括ケアの実現を目指します。



国際学都創生にむけた活動（国際学都研究会）

社会・経済の発展をもたらすものが産業や工業ではなく、「知識」となった社会、すなわち「知識基盤社会」の到来により、都市と大学の知的・創造的な活力が、地域社会から世の中を変革していくために必要とされる時代となりました。これは世界的な潮流であり、例えばアメリカ合衆国オレゴン州のポートランド市、フランスのストラスブール市は、都市と大学の協働によるまちづくりがさまざまな形で進められています。

□ ストラスブール



フランス北東部のドイツ・スイスとの国境に位置し、ライン川流域の交通拠点であり、欧州議会を持つ欧州の首都としての顔も有した都市です。

1980年代から1990年代、カトリーヌ・トロットマン市長の時代に、路面電車による環境に配慮したまちづくりを進め、その後も、自転車や緑地整備、公園整備など都市改造が強力に進められています。

また、ストラスブール大学は、フランス屈指の研究力を有し、ノーベル賞受賞者を10名以上輩出、大学の躍進による都市の魅力向上や経済効果に着目し、都市と大学連合が連携し、学生・研究者に魅力的で定住しやすいまちづくりを進めるなど、大学を核とした都市の発展を推進し、地方にありながら、フランスの拠点大学としての地位を固めています。

□ これまでの取組み

2010年、岡山大学が学都の世界モデルとして、都市と大学が一体となったまちが作られているストラスブール市とストラスブール大学の先駆的な取り組みの研究を始めました。地域が大学を求め、大学が地域に貢献するためにフランスのまちづくりを学び、学都岡山の実現への道筋を探っています。

【2012年3月】 経済界・大学による現地視察

【2012年10月】 国際学都シンポジウムを開催

ストラスブール市第一助役のロベルト・ヘルマン氏、ストラスブール政治学院よりシルヴァン・シルマン教授を招聘し、大学と地域の関わりや、都市とストラスブール大学連合との連携について講演

【2015年5月】 交通ジャーナリスト・ヴァンソン藤井由実氏による交通シンポジウムを開催

【2016年10月】 国際学都シンポジウムを開催

ストラスブール市議会議員カトリーヌ・トロットマン氏、ストラスブール大学ミシェル・デネケン学長を招聘し、若者支援政策など大学まちづくり論について講演

【2017年11月】 産官学（岡山経済同友会、岡山商工会議所、岡山市、岡山大学）トップによる現地視察



□ ポートランド

米国オレゴン州ポートランド市は、急速な工業化による環境汚染を乗り越え、総合的な都市政策の策定とそれを支える市民参加を実現し、持続可能な都市を目指し、エコリバブルシティのモデル都市と位置付けられています。また、地域に根差した学習（CBL：コミュニティ・ベースド・ラーニング）が盛んで、ポートランド州立大学（PSU）を中心として、コミュニティと教育機関が一体となった取り組みを進め、地域の発展に貢献しています。

□ これまでの取組み

住みやすいまちづくりの成功事例としてポートランド市に着目。まちづくりが活発な背景を都市計画や市民参画の視点から明らかにし、勉強会を通じて産官学で共有してきました。

また、CBLの先駆的存在であるPSUとの交流から、授業運営手法や地域連携方法への示唆を得、実践型社会連携教育に活かすべく参考にしています。

【2014年12月】 PSUのスティープン・ジョンソン教授を招聘し、同市のまちづくり経緯について講演

【2015年4月】 産官学（岡山経済同友会、岡山商工会議所、岡山市、岡山大学）トップによる現地視察

ポートランド市長との意見交換や公共交通のシステムや市民主導のまちづくりの発展を学ぶ。6月に岡山市と岡山大学による視察報告会開催

【2015年9月】 まちなか空間デザインシンポジウムを開催

まちづくり団体シティ・リベア代表のマーク・レイクマン氏を招聘し、道路を公共空間に再生する活動について講演

【2015年12月】 都市計画と市民参加の関係をテーマにシンポジウムを開催

PSUのイーサン・セルツァー教授を招聘し、1970年代から始まるポートランド市の固有のまちづくりについて講演

【2016年10月】 PSUによるCBL教授法研修に岡山大学教員3名参加

12月にCBL教授法研修での学びを教育関係者に報告するとともに、PSUの西芝雅美准教授を招聘し、地域の教育力向上について市民との討議

翌年3月、PSUのクリスティーナ・クレス教授を招聘し、岡山大学の実践型社会連携教育の成果を学生が発表

【2017年10月】 PSUによるCBL教授法研修に岡山大学教職員3名参加

翌年1月、CBL教授法研修での学びを市民に報告しつつ、次世代育成のために教育機関と地域が連携する方法を討議



おかやま地域発展協議体 事務局

岡山大学地域総合研究センター内
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1
TEL 086-251-8491
E-mail info-agera@okayama-u.ac.jp
URL <http://okayama-association.jp/>

おかやま地域発展協議体

検索

